

I. 大会概要

- 会期：2015年5月30日(土)・31日(日)
- 会場：京都造形芸術大学 [人間館 / ギャラリー・オーブ]
- 大会参加費(2日間通し / 概要集込み)：
映像学会会員 3,000円、一般 2,000円、学生 1,000円
懇親会 5,000円(参加者のみ)

※申し込み未了の方は5月23日(土)までに、氏名、会員 / 一般 / 学生の別、懇親会参加の有無を大会実行委員会事務局まで Fax、Tel、e-mail のいずれかでお知らせください。

II. プログラム概要

- 5月30日(土)
12:30- 受付開始
13:00-16:20 開会の挨拶 / シンポジウム [ギャラリー・オーブ (人間館 1F)]
大会テーマ：「映画批評・理論の現在を問う」
映画・映像のポストメディアム状況について

バザンの『映画とは何か』の新訳、「作家主義」の記念碑的成果、『ヒッチコック』の邦訳が今年になって日本で相次いで刊行されました。今回のシンポジウムでは、長らく強い影響力をもったバザンの批評や「作家主義」の再検討をふまえて、ポストメディアム状況に突入した映画 (/ 映像) とその批評 / 理論の可能性を問い直します。

- パネリスト
藤井仁子 (映画学、映画批評。共編著に『甦る相米慎二』、『森崎東覚宣言』等)
三浦哲哉 (映画批評・研究、表象文化論。著書に『サスペンス映画史』、『映画とは何か』等)
渡邊大輔 (日本映画史、映画学、批評。著書に『イメージの進行形』等)
堀潤之 (映画研究、表象文化論。共編著に『ゴダール・映像・歴史』、訳書に『ニューメディアの言語』等)

岡本英之 (株式会社 Sunborn 映像事業部「LOAD SHOW」(<http://loadshow.jp/>) プロデューサー。「LOAD SHOW」では、映画製作、配信、情報サイトの運営から雑誌の発行まで、映画関連業務を幅広く手掛ける。)

- 青山真治 (映画監督、小説家。『EUREKA』(2000)、『共喰い』(2013) 等)
16:50- 研究・作品発表 [人間館 4F, B1]
18:30- 懇親会 [ギャラリー・オーブ 吹抜け]

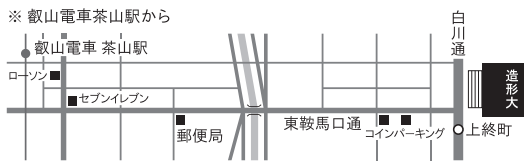
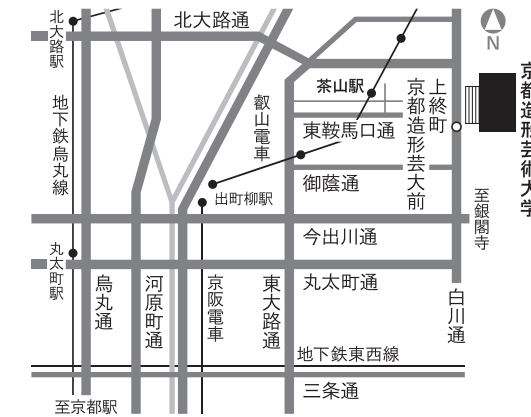
- 5月31日(日)
9:30- 受付開始
10:00-11:50 研究・作品発表 [人間館 4F, B1]
12:00-13:20 昼食 ※理事会 [人間館 4F・NA406]
13:20-14:20 通常総会 [人間館 4F・NA401]
14:50-17:30 研究・作品発表 [人間館 4F, B1]

- 5月31日(日)の昼食について
日曜日のご昼食は学外近辺のお食事処をご利用ください。
大会会場受付にて食事処地図を配布いたします。
- 第42回通常総会ご案内の件
別便往復はがきで5月13日(水)頃発送されています。すでに大会出欠の回答をされている方も、必ずご返送くださいますようお願いいたします。

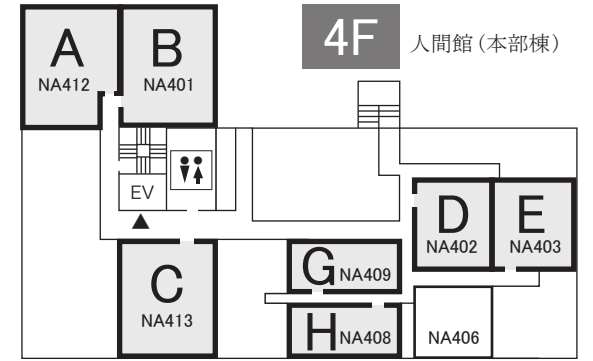
III. 実行委員会

- 委員長 伊藤高志 (映画学科教授 / 会員)
- 副委員長 北小路隆志 (映画学科准教授 / 会員)

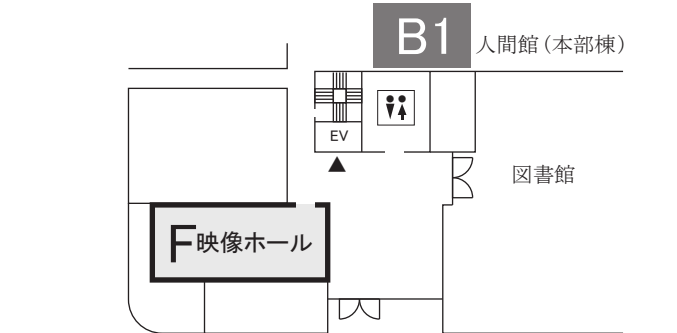
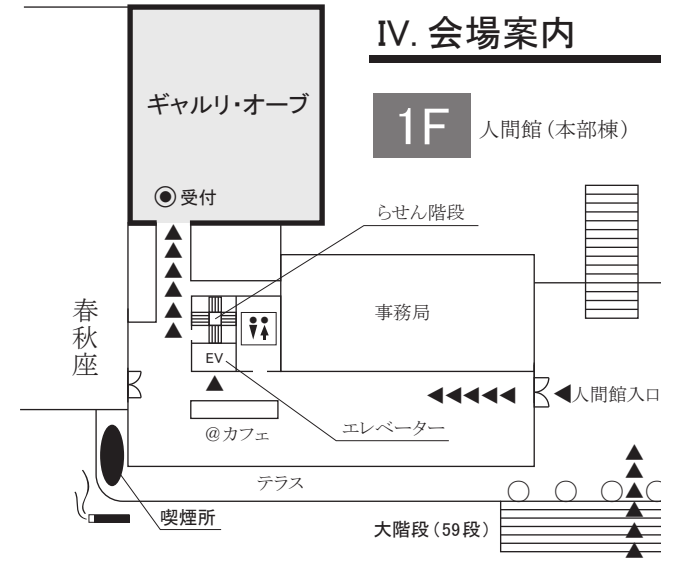
大会実行委員会事務局
〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116 京都造形芸術大学
映画学科研究室内 日本映像学会第41回大会実行委員会
[FAX] 075-791-8398 [TEL] 075-791-8394 (伊藤)
[e-mail] jasias2015@kuad.kyoto-art.ac.jp



- JR・近鉄京都駅、京阪三条駅、阪急河原町駅から
京都市バス5番「岩倉」行き乗車、「上終町・京都造形芸大前」下車
(京都駅から約50分、三条駅・河原町駅から約30分)
 - 京都市営地下鉄丸太町駅・北大路駅から約15分
京都市バス204循環に乗車、「上終町・京都造形芸大前」下車
 - 京阪電車出町柳駅から
叡山電車に乗り換え、茶山駅下車 徒歩約10分
- ※駐車場はございませんので、お車・バイクでのご来場はお断りします。



IV. 会場案内



5/30
[土]

12:30 大会受付開始

| | | | | |
|-------|--|--|--|-----------------------------|
| 13:00 | <p>【開会の挨拶】</p> <p>シンポジウム 「映画批評・理論の現在を問う —————」</p> <p>映画・映像のポストメディア状況について</p> <p>会場：ギャラリー・オーブ（人間館1F）</p> | <p>藤井仁子（早稲田大学）</p> <p>三浦哲哉（青山学院大学）</p> <p>渡邊大輔（跡見学園女子大学）</p> | <p>堀潤之（関西大学）</p> <p>岡本英之（LOAD SHOW Producer）</p> <p>青山真治（映画監督）</p> | <p>司会進行：北小路隆志（京都造形芸術大学）</p> |
| 16:20 | | | | |

| | A 研究発表 NA412 | B 研究発表 NA401 | C 研究発表 NA413 | D 研究発表 NA402 | E 研究発表 NA403 |
|---------------------|--|--|---|---|--|
| 16:50 17:20 | A-1 藤田純一 ウィリアム・フリーズ＝グリーン研究 / 特許抄録を資料として | B-1 羽鳥隆英 配役を夢想する / 植木金矢の剣劇漫画への映画史的接近 | C-1 韓承甫 『流れる』（1956）にみる成瀬映画の特徴 / つた奴と米子の相違と類似 | D-1 東志保 クリス・マルケルとアニエス・ヴァルダの映画におけるグラフィティの意味 | E-1 篠木涼 反応とコントロールの視覚文化論 / 1960-70年代における行動主義心理学・行動療法におけるイメージ |
| 17:30 18:00 | A-2 今井イリス・松尾好洋 撮影カメラナガフィルムを使用したデビューリクレーションの試み | B-2 関スラ 1930年代日本映画の中の近代女性像に対するスタイル研究 / 映画『淑女は何を忘れたか』... | C-2 趙陽 アントニオニー『さすらいの二人』論 | D-2 宮田徹也 ヒギマ春夫の映像の可能性 / 現代美術の視点から | E-2 青山太郎 東日本大震災のイメージをめぐる「記録」と「表現」に関する考察 |

| F 作品発表 映像ホール | G 作品発表 NA409 | H 作品上映 NA408 |
|---|--|-----------------------------------|
| F-1 大島慶太郎 『POP 70』 / 白黒ハイコントラストフィルムによる映画制作 | G-1 奥野邦利 『未来の考古学 File NO.001』 ProRes422 / 15min / 2014年制作 | 作品発表者の映像作品 (F,Gプロ)をループ上映 ↓ |
| F-2 ほしのあきら・横溝千夏 作品『行方不明』 / ちよっと前の再構成 | G-2 風間正・大津はつね 『記憶のマチエール #7 (D-26)』 | |

18:30 懇親会
20:00 ギャラリー・オーブ（人間館1F）

5/31
[日]

| | | | | | |
|---------------------|---|--|---|--|---|
| 10:00 10:30 | A-3 水野勝仁 画像とテキスト：ポストインターネットにおける2Dと3D | B-3 名取雅航 精神主義映画にみる男性ジェンダーの多元性 / 戦時下の見えない父とホモエロティシズム表象をめぐる | C-3 田中晋平 相米慎二の映画における生・死 / 『夏の庭 The Friends』のゆらぐ光を中心に | D-3 桑原圭裕 アンサンブル・フィルムにおける物語世界の内外 | E-3ドキュメンタリードラマ研究会 ドキュメンタリードラマ研究会の活動について |
| 10:40 11:10 | A-4 池側隆之 映像記録と発信をめぐるデザイン学的考察 / 『Storycorps』と『FIXPERTS』を軸に | B-4 成田雄太 日本における無声映画期のプログラム / その映画史研究的意義について | C-4 飯岡詩朗 テレビ / 映画批評としての『The Long, Long Trailer』（1953） | D-4 上田学 田中栄三論序説 | E-4 高橋克三 記憶と記録の狭間にて / 3年目に入った東京都北区「映画アーカイブ」による街おこし |
| 11:20 11:50 | A-5 孟祥宇 バーチャル 3D 空間における映像オブジェクトについて / レイヤー構造の考察を通じて | B-5 小川佐和子 実写からプロバガンダへ / 日本における第一次世界大戦映画 | C-5 山本祐輝 『M★A★S★H』（1970）の拡声器 / ロボット・アルトマン映画における装置を介した音声と語り | D-5 泉順太郎 『009 RE: CYBORG』における不可解な正義 | E-5 植田寛 高等教育における映像専門教育の指導方法の考察 |
| 12:00 13:20 | 昼食 / 理事会 ※理事会は NA406 教室（人間館4F）にて開催 | | | | |
| 13:20 14:20 | 第42回通常総会 NA401 教室（人間館4F） ※大会参加学会員は必ず出席して下さい。 | | | | |
| 14:50 15:20 | A-6 ヨハン・ノルドストロム P.C.L.映画に見るサウンドの技術と美学 | B-6 盧銀美 ナラージュにおけるヴォイス・オーヴァー / 映像を語る声の歴史的考察 | C-6 広瀬愛 映画『四谷怪談』考 / 深作欣二『忠臣蔵外伝 四谷怪談』における怪異性 | D-6 百束朋浩 実写化されるヒーロー / 映像表現の日米映画比較研究 | E-6 中垣恒太郎 災害表象とドキュメンタリー表現の変遷 / 都市・環境・テクノロジーの政治学と倫理 |
| 15:30 16:00 | A-7 鈴木清重 映像体験の記述と理論構築に関する実験心理学的研究 / 映像環境の「モンタージュ」と「ゲシュタルト」 | B-7 板倉史明・松尾好洋 1930年代におけるアマチュア映画文化と色彩 / コダカールの研究活用とアーカイビング | C-7 玉田健太 音なきメロドラマ『ジョニー・ベリンダ』（1948）におけるヒロインと医師の関係性 | D-7 野村建太 日記映画とアニメーションについて | E-7 村上泰介 模倣の共振と創造 / 発達障害の身体イメージへの芸術的アプローチ |
| 16:20 16:50 | A-8 江本紫織 能動的プロセスとしての写真 / コンテキストに対する有機的関わりからの | B-8 牛田あや美 子供雑誌に描かれた「写真小説」 / 戦時下の漫画研究めぐって | C-8 井川重乃 加藤泰『皆殺しの霊歌』論 / 大和屋竺と菅藤龍風論争を手がかりとして | D-8 西村智弘 アニメーションという言葉はどのようなに広まったか / 「アニメーション三人の会」を中心に | |
| 17:00 17:30 | A-9 小出正志 学生アニメーション作品の管理・保存と利活用に関する一考察 | B-9 紙屋牧子 「傾向映画」再考：1920年代と1930年代の接続 / 切断面 | C-9 今村純子 夢見る権利 / 宮崎駿監督『風立ちぬ』めぐって | D-9 森友令子 『白蛇伝』と『天守物語』にみる背景描写 | |

| | | |
|--|---|-----------------------------------|
| F-3 末岡一郎 『KAK CHIMAIOT KIMHO』 ~映画作法~ | G-3 山本努武 全方位メディアを用いた作品「あそびの描像」についての作品発表 | 作品発表者の映像作品 (F,Gプロ)をループ上映 ↓ |
| F-4 川口肇 『formosa-blue』 / デジタルを介する銀塩フィルム表現 | G-4 小林和彦 『Trace undulation』 | |
| F-5 太田曜 16mm映画『フランス・パニング・コック隊長の市警団』 | G-5 井上貢一 Movie Square / マルチ映像提示のためのWebシステム | |

| | | |
|--|--|-----------------------------------|
| F-6 アナログメディア研究会 日本の実験映画作家の作品を16mmプリントで上映 & コメントーク | G-6 黒岩俊哉 “nH=2 for Installation” 黒岩俊哉映像個展「まなざしのパッセージ4 - 記憶の融即律」について | 作品発表者の映像作品 (F,Gプロ)をループ上映 ↓ |
| F-7 映像表現研究会 ISMIE 2014のセレクト作品上映 & コメントーク | G-7 芦谷耕平 『アンノミクス』 | |